



TITLE:

京大広報 No. 330

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 330. 京大広報 1987, 330: 283-294

ISSUE DATE:

1987-04-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209350>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 330

京都大学広報委員会



昭和62年度学部入学式 — 関連記事288ページ —

目 次

学部入学式における総長のことば		昭和61年度京都大学創立七十周年	
総長 西島 安則……	284	記念後援会助成金交付者……	289
昭和62年度入学選抜学力試験の結果……	287	最近の学生の動向……	292
名誉教授称号授与式……	287	＜保健コーナー＞	
昭和62年度学部入学式……	288	エイズについて……	292
昭和62年度大学院入学式……	288	訃 報……	293
昭和62年度医療技術短期学部入学式……	288	日 誌……	293
部局長の交替等……	289	＜随想＞	
沢田敏男名誉教授が日本学士院賞を受賞……	289	土質力学を専攻した動機	
		名誉教授 村山 朔郎……	294

学部入学式における総長のことば

昭和62年4月11日

総 長 西 島 安 則

入学生諸君、入学おめでとう。

本日、ここに、名誉教授の先生方のご臨席をいただき、各部局長、教職員の皆様とともに、昭和62年度学部入学式を挙行し、2,802名の第1学年入学者、それに第3年次への編入者33名を加えると、2,835名のはつらつとした諸君を迎えることは、京都大学の最も大きな喜びであります。

この度は、国立大学の入学試験制度が改革され、受験機会が複数化されたなかで、諸君もいろいろ悩み苦労も多かったと思います。大学も、昭和54年度に国立大学の共通第一次学力試験の実施とともに二次試験の試験期が一本化されて以来の大幅な入学者選抜方法の変革のために、未知の要素も多く、いろいろ苦心をしました。より个性的な高等教育の発展を目指したこの入試制度改革の趣旨が、社会の現実のなかでどれだけ生かされたかは、これから解析評価されるところであります。

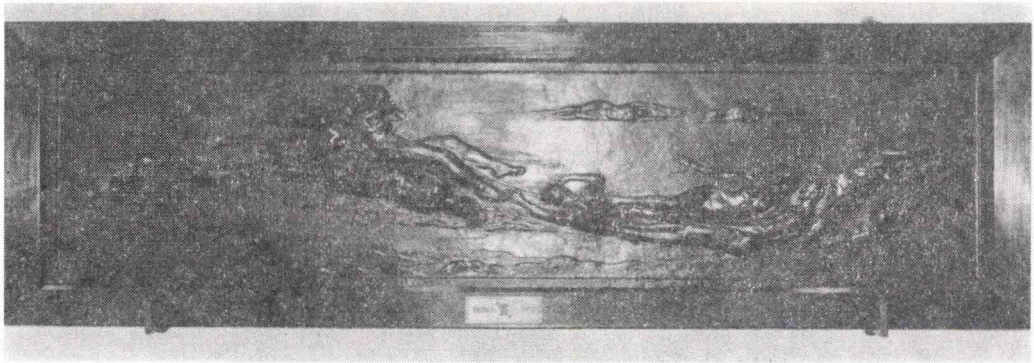
このような中で、諸君は京都大学に学ぶことを志し、努力を重ねてきました。そして、本学は諸君を共に学問をするのにふさわしい人物として選び、そして、諸君はこの京都大学をこれから学問をする大学として選んで入学したのです。本学が諸君を選び、諸君が本学を選び、ここに相まみえるこの意義深い出会いの場である今日の入学式、誠に感慨深いものがあります。

京都大学は、諸君をこの大学の伝統の新しい力強い担い手として心から歓迎します。本学が諸君に期待するところは、大変大きいものがあります。そのような期待のあらわれとして、今日は数多くの名誉教授の先生方がこの晴れの入学式にお越しくださいました。

諸君は今、これから始まる京都大学の学生としての日々に意欲を燃やしていることと思います。今日の日を心待ちにしつつ、これまでに諸君を育み励まして下さったご両親、ご家族の皆様、諸君に人生の大きな希望をもって自ら学ぶことを教えられた先生方、生き生きとした日々を楽しく実り多いものにしてくれた友人達、そして陰になり日向になり諸君をいろいろの面で支えてこられた方々、これらの多くの方々に、諸君とともに改めて心からお礼を申し上げたいと思います。

京都大学は、明治30年(1897)に創立されました。今年で創立90周年を迎えます。京都大学が創設された時期は、19世紀が終わり20世紀が始まろうとするときで、学問の歴史において大変大事なときでありました。それは、人文科学、社会科学そして自然科学のあらゆる分野において、奔流のような勢いで新しい学問の展開が始まろうとしているときでした。それから90年、今日までわが国のたどってきた道、そして世界の情勢は決して平坦なものではありませんでした。しかしそのなかで、京都大学はこの京都の地、日本文化の古い伝統を保ちつつ、そして常に新しい創造を育んできたこの恵まれた環境のなかで、大きく成長し、世界のなかの学問の府として発展してきたのです。

諸君が京都大学の正門を入りますと、正面に時計台の建物が建っています。この建物は、当時京都帝国大学の工学部建築学科創設時の教授武田五一先生(明治5年～昭和13年、1872～1938)が中



附属図書館一階の奥の壁に掛けられている『空』の原型

心になって設計され、大正14年（1925）に竣工したものです。この60余年、京都大学のシンボルとしての建物であるとともに、日本の近代建築史上、大事な時期を象徴する建物でもあります。正面に立つ樟をまわって時計台の正面玄関の石段を上がると、入口の上に大きなブロンズの浮彫りが飾られているのに気付くでしょう。それは、斎藤素巖（明治22年～昭和49年、1889～1974）という彫刻家の『空』と題された作品です。何時の頃からかこれは『雲』とも呼ばれています。流れるような雲のイメージのなかに、何人かの男女の像が浮き彫りにされています。若々しい、そして自由と風格とをそなえた作品です。その彫刻の原型は、時計台の西側に新築された附属図書館の一階の奥の壁に掛かっています。諸君もこれから図書館へ行ったときには静かに鑑賞してください。時計台正面のブロンズのレリーフは当時わが国の鑄造界の第一人者であった阿部整美によって鋳上げられたものです。この彫刻家斎藤素巖は、ロンドンのロイヤル・アカデミーで彫刻を学び、帰国して個性的な深い味わいのある作品を制作してこられました。若い頃、なかなか世に受け入れられず、苦しい生活の中でただ彫刻に打ち込んでおられました。この『空』あるいは『雲』と題する作品は、大正13年（1924）の作です。帝展に出品され、多くの人々の注目をあつめた名作です。時計台の建物の完成時に京都大学はこの彫刻を求め、正面玄関に飾ることになりました。当時の総長（第7代）は荒木寅三郎先生であります。大正14年5月14日の朝、2台の牛車がこの原型とブロンズで鑄造されたレリーフをそれぞれ積んで、京都大学にきました。作者の斎藤素巖氏もその取り付けに立ち会っておられたという記事が、その頃の新聞に載っています（京都帝国大学新聞第3号、大正14年5月15日）。この作品は京都大学にふさわしい名作であります。そして、この60余年の間、幾度かの嵐の時代を超えて、あの『空』の若々しい自由な美しさがこの京都大学の雰囲気の中で大事に守られ、ひき継がれてきたことを嬉しく思うのです。

京都大学の学風は「自ら学ぶ」ことにあります。それは、一人ひとりの個性の尊重であります。そしてお互いに個性を尊重しあうこの学問の府には、おのずから自由の気がみなぎっております。この学問の自由も、そして、それを確かなものにする大学の自治も、学問の質の高さによってこそ真に保たれるものであります。

京都大学は、教育と研究の一体性を重んじてきました。教官と学生が学問をすることのよろこびを共にする気風が学問の府としての本学の特色であり、また活力でもあります。ここでは常に学問の基礎を重視し、個性的で先導的な学問を展開しています。

彫刻家の本郷 新（明治38年～昭和55年，1905～1980）が次のように書いています。「石と木と粘土とを素材として比べてみると，誰しも石を彫ることは一番難儀だと考える。ところが，彫刻する側からいうと，石が一番楽で，それから木，粘土が一番むづかしい。石も固ければ固いほど相手にしやすい。固ければ固いほど，石の抵抗は強い。その抵抗があればあるほど，石は人に向かって，ここを彫れ，ここを刻め，ここを削れ，と石の方から教えてくれる。石の方に自由（主張）が存分に与えられて，彫る人間には自由を微量にしか与えられない。その不足分は，石の方で責任を負ってくれる。即ち，彫りすぎることなく，彫った分だけ，その素材の抵抗の勝利を石は目の前で誇示する。だから，石の彫刻の完成度は，この抵抗力によって早められる。少なくとも，いつでも完成の姿体を示すことができる。彫刻家が，石が一番楽だというのはこの意味である。

これに引きかえ，粘土をもって形を造る方は，粘土という抵抗のない素材の故に，自由は作者の側に存分にある。大きさも形も自由自在である。だから，抵抗力は造る側の人間の内部に積り積って，一切が作者の責任となる。抑制も，誇張も，勇断も，逡巡も，意識も，無意識も，すべて形のなかに証明されて，作者は責任を問われるのである。」（『彫刻の美』）

学問との取り組み方に照らして，大変味わい深い言葉であると思いました。

私は，以前に，フランスのロダン美術館へ何度も通ったことがあります，そこには，粘土による数えきれないほど多くの人物の習作がありました。そのひとつひとつのなかに，彼の制作の苦悩，混乱，苦闘を見て，この芸術家の人間性にじかに触れる思いをしたものです。

これから諸君が京都大学で「自ら学ぶ」ということのなかに，大きな固い岩のような対象もあるでしょう。また，美しい木目をもった木のような素材もあるでしょう。あるいは，粘土のような材料をもって何かを創り出す場合もあるでしょう。これは決して学問分野による違いのことをいっているのではないのです。それぞれの分野で，学問と相対するなかで自覚される自分の状態のことです。学問も芸術も，そこにあるのは人間であります。

諸君はこれからいよいよ諸君自身の「とき」をもつのです。ある時には巨大な岩壁に思い切って垂直に力強く鑿を打ち込んでください。またある時には美しい木の肌を心いくまで愛でるのもよいでしょう。またある時には，柔らかな粘土を前にしてじっと黙って考えるのもよいでしょう。京都大学とは，そのような所です。

この学問の府には，11,000人以上の学部学生と，4,000人近くの大学院学生，それに，5,500人を超える教職員がいます。そして，世界の諸国から京都大学へ研究，勉学に来ておられる学者，研究者，留学生を合わせると，1,000人を超えます。学問のあらゆる分野で最高水準の教育研究がなされています。こんなに恵まれた出会いの場，こんなに素晴らしい自分を磨く場，そして，自由に自分を見つめることのできる場は今日の世界のなかでも数少ないものと思います。これからの学生生活，スポーツも芸術も，その他あらゆる活動を含めて，京都大学での楽しく充実した日々を送ってください。学生生活は諸君の人生のこの次の「とき」のための準備ではないのです。京都大学で諸君自身が何をを得るかが問題なのです。思い切り自分を磨いてください。

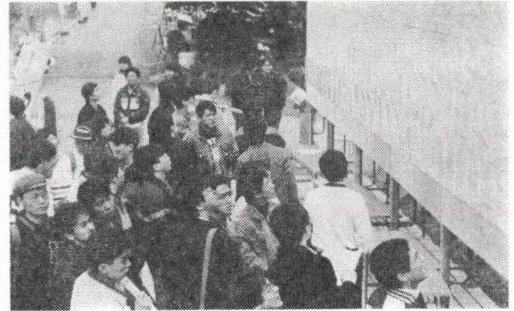
悠久の大河のごとき，人類の知的遺産の継承と発展ということをじっくりと考え，しっかり自分を見つめ，また語り合える友を得て，この京都大学で大きく育ってください。そのことが，京都大学の伝統をさらに輝かしいものにすることになるのであります。

＜大学の動き＞

昭和62年度入学者選抜学力
試験の結果

昭和62年度入学者選抜学力試験合格者の入学手続が4月4日（土）に完了した。

学部別の受験者数・合格者数及び入学手続者数等は次表のとおりである。



合格発表（3月18日）

学 部	(A) 募集人員	(B) 志願者数	(C) 倍 率 (B/A)	(D) 第1段階選 抜合格者数	(E) 第2次試験 受験者数	(F) 倍 率 (E/A)	(G) 欠席率	(H) 合格者数	(I) 入学手 続者数
文 学 部	220人	1,074人	4.9	706人	680人	3.1	3.7%	361人	220人
教育学部	60	515	8.6	206	197	3.3	4.4	89	60
法 学 部	400	3,277	8.2	1,439	1,386	3.5	3.7	575	413
法学部A	150	1,051	7.0	556	528	3.5	5.0		
法学部B	250	2,225	8.9	883	858	3.4	2.8		
経 済 学 部	240	1,122	4.7	973	926	3.9	4.8	444	256
理 学 部	291	2,228	7.7	2,039	1,917	6.6	6.0	531	294
医 学 部	120	862	7.2	436	427	3.6	2.1	167	112
薬 学 部	80	376	4.7	299	281	3.5	6.0	121	80
工 学 部	995	4,513	4.5	3,503	3,385	3.4	3.4	1,501	1,033
農 学 部	310	1,094	3.5	1,093	1,045	3.4	4.4	430	315
計	2,716	15,061	5.5	10,694	10,244	3.8	4.2	4,219	2,783

(注) 1. 受験者数・欠席率は最終教科のものである。

2. 法学部と経済学部の合格者数には、外国学校出身者のための選考試験合格者12名と10名とがそれぞれ含まれ、また、両学部の入学手続者数には、同選考試験合格者12名と4名とがそれぞれ含まれている。

名誉教授称号授与式

4月4日（土）午前10時から、名誉教授称号授与式が、事務局大会議室において挙行された。授与式は、部局長の臨席のもとに行われ、称号授与のあと、「総長あいさつ」があって、午前10時50分に終了した。

称号を授与された方は次の39名である。

（敬称略）

（氏 名） （推薦部局長）

三 木 晴 男（理 学 部）

中 垣 正 幸（薬 学 部）

原 田 浩（農 学 部）

中 野 茂 男（数理解析研究所）

後 藤 尚 男（工 学 部）

竹 内 實（人文科学研究所）

水 野 政 夫（工 学 部）

米 澤 貞次郎（ ）

菱 山 泉（経 済 学 部）

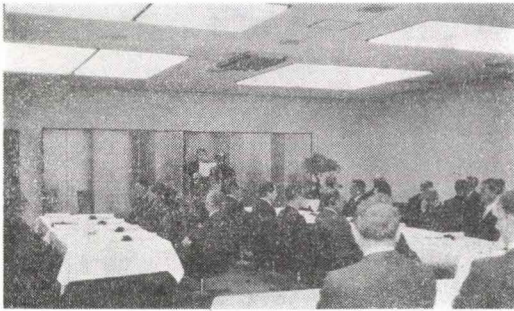
前 田 弘（工 学 部）

川 井 孝 夫（教 養 部）

向 坂 正 勝（工 学 部）

田 村 今 男（ ）

一 戸 時 雄（理 学 部）



名誉教授称号授与式

林 久 三 (教 養 部)
 吉 澤 尚 明 (理 学 部)
 越 智 武 臣 (文 学 部)
 濱 島 義 博 (医 学 部)
 岩 垣 雄 一 (工 学 部)
 河 合 雅 雄 (霊長類研究所)
 佐々木 功 (農 学 部)
 亀 山 正 邦 (医 学 部)

喜 多 秀 次 (教 養 部)
 渡 部 忠 世 (東南アジア研究センター)
 近 藤 良 夫 (工 学 部)
 岡 本 邦 男 ()
 川 村 俊 藏 (霊長類研究所)
 柴 田 俊 一 (原子炉実験所)
 川 口 市 郎 (理 学 部)
 小 川 徹 (超高層電波研究センター)
 川 村 登 (農 学 部)
 桑 原 道 義 (工 学 部)
 高 田 理 夫 (防 災 研 究 所)
 野 口 名 隆 (法 学 部)
 高 木 博 司 (薬 学 部)
 吉 川 恭 三 (理 学 部)
 桂 山 幸 典 (原子炉実験所)
 佐 野 晴 洋 (医 学 部)
 佐々部 英 男 (教 養 部)

昭和62年度学部入学式

4月11日(土)午前10時10分から、昭和62年度学部入学式が名誉教授はじめ来賓の臨席のもとに、本学総合体育館において挙行された。

入学式は学歌斉唱(京都大学音楽部交響楽団及び京都大学合唱団が協力)に続いて、「総長のことば」(前掲)があり、午前10時40分終了した。

今年度の新入生数は外国人留学生19名を含め次のとおりである。

文学部220名、教育学部60名、法学部414名、経済学部266名、理学部294名、医学部112名、薬学部80名、工学部1,041名、農学部315名、計2,802名。そのほか、第3年次に33名の編入者があった。

昭和62年度大学院入学式

4月11日(土)午後3時から、昭和62年度大学院入学式が名誉教授はじめ来賓の臨席のもとに、本学総合体育館において挙行された。

入学式は学歌斉唱(京都大学音楽部交響楽団及び京都大学合唱団が協力)に続いて、「総長のことば」があり午後3時40分終了した。

なお、今年度の大学院入学及び進学状況は次のとおりである。

研 究 科	修士課程	博 士 後 期 課 程	
		入 学 名	進 学 名
文学研究科	76 名	9 名	49 名
教育学研究科	19	1	6
法学研究科	18	6	11
経済学研究科	24	2	14
理学研究科	156	6	80
医学研究科		100*	
薬学研究科	41	0	12
工学研究科	596	19	61
農学研究科	153	14	49
計	1,083	157	282

注 *は博士課程

昭和62年度医療技術短期大学部入学式

医療技術短期大学部では、昭和62年度入学式を4月7日(火)午前10時から、本短期大学部講堂

において来賓臨席のもとに挙行した。式典は学長式辞、来賓祝辞があって、午前10時50分終了した。

今年度の新入生数は、看護学科80名、衛生技術学科40名、理学療法学科20名、作業療法学科20名及び専攻科助産学特別専攻20名の計180名である。
(医療技術短期大学部)

部 局 長 の 交 替 等

原子炉実験所長

岡本 朴原子炉実験所教授(原子炉設備研究部門担当)が4月2日同実験所長に再任された。任期は昭和64年4月1日までである。

沢田敏男名誉教授が 日本学士院賞を受賞

このたび、沢田敏男名誉教授に日本学士院賞が授与されることになった。授賞式は6月上旬、日本学士院会館で行われる予定である。

以下に同名誉教授の略歴、業績等を紹介する。



沢田 名誉教授は、三重県出身、昭和17年京都帝国大学農学部農林工学科卒業、岡山県立農業専門学校教授を経て、昭和25年京都大学農学部農業工学教室助教授、同34年同教授、同54年京都大学総長、同60年京都大学名誉教授、同61年日本学術振興会会長となり、現在に至っている。

同名誉教授の今回の受賞の対象となったのは、「貯水ダムの設計に関する研究」である。

この研究は、各種の型式のダムの設計理論にかんする問題点を取り上げ、それを解明し実用設計に寄与した一連の成果である。したがって、研究は多岐にわたっている。コンクリートダムにかんしては、中空重力式ダムの三次元効果の解明と設計上の配慮、アーチ作用の発現が期待できない広い谷におけるアーチダムの設計理論、断層破砕帯の処理論などの開発研究がある。フィルダムにかんしては、盛り立て施工にともなう発生する間隙圧の解析法をはじめとし、基本的課題である

静的変形挙動、地震時応答、透水制御などにかんして有益な成果を得ている。また、堤体の一部をコンクリートダム、他の部分をフィルダムとして两部分から成る複合ダムでは、接合部において土が自重によって変形しても接触面が分離しない条件を求め、その理論に適合する三次元曲面の壁を構築してコンクリート部とフィル部を接続する理論を開発した。この結果、長期にわたって継続進行する土の変形に対して、また地震時に起こる急激な沈下に対しても、安定化を図ることが可能になった。この理論は、わが国はもとよりインドネシア、タイ、ペルー、中国、韓国などの多数のダムの設計に用いられている。

同名誉教授の研究の特徴は、土質力学、構造力学などダム工学の基礎学となる分野の広い知識と、深い洞察力に立脚した巧妙な発想によって展開されており、それぞれの研究は常に設計実務との関連を十分に認識して行われている点にある。したがって、その成果の大部分は実際のダムに適用され、完成したダムによってその妥当性が裏付けられている。

これらの研究に関連して、昭和58年ペルー国立工科大学名誉教授、同60年韓国慶北大学校哲学博士、同61年ドイツ連邦共和国功勞勲章大功勞十字章(Das Grosse Verdienstkreuz)などが授与されており、国際的評価を伺い知ることができる。

以上のような輝かしい同名誉教授の研究・教育上の業績を考えると、その受賞はまことによこばしい。
(農学部)

昭和61年度京都大学創立七十周年 記念後援会助成金交付者

京都大学創立七十周年記念後援会助成金選考委

員会で決定した昭和61年度助成金交付者は、第1種(海外派遣研究員)20名、第2種(海外から招へい学者)14名、第6種7名で、それぞれ次のとおりであった。

1. 第1種

本学教官が、専攻する学問分野等について調査、研究のため海外に派遣される場合に助成金（往復航空賃及び日当、宿泊料）を交付するもので、派遣区分は、6か月、3か月、1か月、若手研究者（概ね1年）がある。

派遣区分	所属部局	職名	氏名	派遣国	研究題目
6か月	医学部附属病院	助教授	山 邊 博 彦	アメリカ合衆国, ドイツ連邦共和国, スイス, オランダ, オーストリア	悪性腫瘍の病理組織学的研究
	教 養 部	教 授	田 口 義 弘	オーストリア, イタリア, スペイン, スイス, ドイツ連邦共和国	ライナー・マリーア・リルケの伝記的研究
	原子エネルギー研究所	助教授	内 藤 静 雄	連合王国	格子欠陥及び不純物が金属結晶の力学的・電気的性質に与える影響の研究
3か月	経 済 学 部	教 授	高 寺 貞 男	フィンランド, オーストリア, 連合王国, カナダ	社会的情報処理と代替会計システムの研究
	理 学 部	助 手	田 中 和 彦	ドイツ連邦共和国, オランダ	エン反応におけるキラリティ転位と不斉合成反応の研究
	工 学 部	助 手	松 下 泰 雄	アメリカ合衆国	擬リーマン多様体の特性類について
	木材研究所	助 手	角 田 邦 夫	オーストラリア, ニュージーランド, アメリカ合衆国, カナダ	低毒性木材保存薬剤及び保存処理法に関する研究
1か月	教 育 学 部	教 授	河 合 隼 雄	フランス, スイス	日本中世説話における夢の深層心理学的研究調査
	経 済 学 部	教 授	小 野 一 一 郎	連合王国	イギリス特にロンドンにおける外国人（有色移民）労働者の現状調査
	理 学 部	助教授	藤 澤 久 雄	アメリカ合衆国, カナダ, スペイン, スイス	第10回バクテリオファージ構造形式研究集会出席及び植物生理・生態学の研究
	医 学 部	教 授	佐々木 和 夫	アメリカ合衆国, カナダ	脳活動に伴う磁場の変化に関する研究
	薬 学 部	助教授	上 田 伸 一	カナダ, アメリカ合衆国	植物二次代謝産物の培養細胞による生産及び生物合成に関する研究状況調査並びに第6回国際植物組織培養会議出席
	工 学 部	助 手	八 坂 保 能	アメリカ合衆国	タンデムミラーによる高周波安定化の研究
	農 学 部	助教授	大 西 近 江	インド, ネパール	野生及び栽培ソバの遺伝的変異と栽培ソバの起源地に関する研究
	化学研究所	教 授	竹 中 亨	アメリカ合衆国	機能性有機薄膜の振動分光学
	食糧科学研究所	助教授	坂 口 守 彦	連合王国, フランス	水産動物内の有効利用に関する研究現況調査及び第8回国際比較生理化学シンポジウム出席
	体育指導センター	助教授	井 街 悠	アメリカ合衆国, ブラジル	日系人の体力調査
	医 学 部	助 手	針 谷 敏 夫	アメリカ合衆国	プロラクチンの生物学的多様性に関する共同研究
若手研究者	農 学 部	助 手	左 子 芳 彦	ドイツ連邦共和国, アメリカ合衆国	淡水赤潮藻類のシスト（休眠胞子）に関する生理・生化学的研究
	防災研究所	助 手	石 垣 泰 輔	ドイツ連邦共和国	水理シミュレーション手法に関する研究調査

2. 第2種

海外から学者を本学に招へいし、講義、研究指導等を依頼してその分野の研究発展を図るとともに、

本学との共同研究の基盤を固めるため、助成金（往復航空賃及び滞在費）を交付するもので、招へい期間は原則として1～3か月（一般）及び概ね1年（若手研究者）である。

区 分	受け入れ部局	招へい学者名	国名・所属機関及び職名	研 究 題 目
一 般	経 済 学 部	William B. Wolf	アメリカ合衆国・コーネル大学名誉教授	経営管理論, 経営学説史, 人事管理論
	経 済 学 部	Benjamin Coriat	フランス・パリ第7大学教授	産業のオートメーション化・情報化の社会的影響
	理 学 部	Wolfram Weise	ドイツ連邦共和国・レーゲンスブルグ大学教授	原子核（広くはハドロン系）における中間子とクォーク
	理 学 部	William C. Saslaw	アメリカ合衆国・ヴァージニア大学教授	宇宙論, 電波天文学, 恒星系力学
	工 学 部	Zelimir Gabelica	ベルギー・ナムール大学講師	新規なゼオライト結晶の合成と成長機構に関する研究
	工 学 部	John O. Brittain	アメリカ合衆国・ノースウェスタン大学教授	金属間化合物の構造と強度に関する研究
	教 養 部	Yasushi Takahashi	カナダ・アルバータ大学教授	素粒子の統一理論
	教 養 部	John Holloway	連合王国・ケンブリッジ大学クィーンズカレッジ終身フェロー	近代英文学
	教 養 部	Karel Fiala	チェコスロバキア・科学アカデミー東洋研究所主任研究員	日本語の談和構造の研究
	ウイルス研究所	Joseph R. Nevins	アメリカ合衆国・ロックフェラー大学準教授	真核細胞の遺伝子発現制御
若 手 研究者	原子炉実験所	Palakurti Suresh Chandra Rao	アメリカ合衆国・フロリダ大学教授	環境中における有毒物質の挙動予測
	理 学 部	Nand Lal	インド・クルクシェトラ大学講師	粒子飛跡に関する基礎的研究
	教 養 部	Paul Anthony Stean Harvey	連合王国・オックスフォード大学オールドカレッジ個人指導教官, 大学院セミナー指導教官	イギリス・ルネッサンス文学と旅
	結核胸部疾患研	Htin Aung	ビルマ・国立医学研究所研究員	呼吸器病学の臨床研究

3. 第6種

総長及び総長が大学行政上特に必要と認めたものの外国出張に対し、助成金を交付するものである。

所 属・職 名	氏 名	期 間	派 遣 目 的
学生部学生課専門員	山 田 有 一	昭和61. 9. 23～61. 9. 28	韓国の高等教育・研究機関における学術交流の実情調査
庶務部国際交流課第二渉外掛長	山 崎 俊 之	〃	〃
同 第三渉外掛	二 塚 伸 和	〃	〃
庶 務 部 国 際 交 流 課 長	奥 野 弘	昭和61. 10. 7～61. 10. 20	ソビエト連邦, ポーランド, チェコスロバキア, ドイツ連邦共和国の高等教育・研究機関における学術交流の実情調査
経理部経理課長	永 井 克 知	昭和61. 11. 25～61. 12. 6	東南アジア諸国における大学運営及び施設に関する実情調査並びに東南アジア研究センター連絡事務所の管理状況等視察
庶 務 部 広 報 調 査 課 長	三 好 彌 博	昭和62. 1. 28～62. 2. 4	アメリカ合衆国の高等教育・研究機関における広報システム等の実情調査
文学部教授	朝 尾 直 弘	昭和62. 3. 20～62. 4. 3	アメリカ合衆国の高等教育・研究機関における学術・教育の国際交流の現状と問題点等に関する実情調査

最近の学生の動向

2月12日(木)午前8時50分頃、熊野寮生約60名が、熊野寮の炊事人(非常勤)の退職問題の件で、厚生課寮務掛に突然押しかけ、同課職員を約4時間にわたり拘束し、業務を混乱させた。このため再三にわたり退去するよう説得したがこれに応じないため、12時5分に学生部長名による退去命令を口頭で発するとともに、退去命令文書を提示した。その後、寮生は12時50分頃退去した。

2月14日(土)には、午前10時頃から12時50分頃まで、熊野寮生10名が厚生課寮務掛において、

上記の問題及び話し合いのルールに関連して、厚生課長を約束の時間を超えて拘束し、大声を発して、ばり雑言を浴びせるなど激しい威嚇的行為を行った。

学生部は従来から、いわゆる大衆団交は行わないこと、少数の代表者と一定のルールに従って、平穩に話し合いをする用意があることをしばしば学生諸君に伝えてきた。このことは、昭和55年2月1日付京大広報をはじめ学生部長文書等で明らかにしてきている。

(学生部)

保健コーナー

エイズについて

エイズという病気は、後天性免疫不全症候群という英語、Acquired Immune Deficiency Syndrome の頭文字をとった略称(AIDS)のことで、その高い死亡率によって多くの人に恐れられている。この病気に対する有効な治療法が現在見付かっていないため、この病気に感染した人は恐ろしい勢いで増えている。

ペストが中世のヨーロッパ中に広がり、当時のヨーロッパ人口の約25%がこの病気で倒れ、また、ヨーロッパに持ち込まれた梅毒が、あっという間に全世界に蔓延したのに似ている。しかし、エイズに対する正しい知識と良識があれば、決して恐ろしい病気ではない。

1975年頃、アフリカで珍しい病気くらいに思われていたエイズは、1978年アメリカでホモセクシャルの間でまたたく間に広がり、1981年に最初の報告がなされた。

エイズはレトロウイルスの一種であるエイズウイルスによっておこる病気である。レトロウイルスとは、RNAを遺伝子として、逆転写酵素をもっているウイルスという意味である。エイズウイルスは熱やアルコールには弱い。このウイルスの起源は、アフリカ・ザイールに住む猿(グリーン・モンキー)の持つウイルスの変異株か、あるいはアフリカ奥地に存在していたウイルスが何か変

異をおこしてその病原性を強め、アメリカやヨーロッパの大都市のホモセクシャルの間に広がったものではないかといわれているが、確かなことは不明である。このウイルスの感染力はそれほど強いものではなく、おもに血液、精液を介して感染する。空気感染や、身体が接触した程度では感染しない。しかし、エイズ患者の母親から生れてくる子供は、半数以上が感染するともいわれており、母乳による感染の可能性もある。

この病気は、エイズウイルスが血液中のリンパ球のうちのT₄(ヘルパーTリンパ球)の中で増殖し、このリンパ球が消失するため、細菌、カビ、ウイルス、寄生虫などの感染に抵抗する働きを司る免疫機能が働かなくなるためにおこる。免疫機能が著しく低下するため、普通では病原性を示さない寄生虫が日和見的に感染して発病するカリニ肺炎という特異な肺炎がみられる。また、通常では珍しいカポジ肉腫という一種の皮膚癌や、発熱、全身のリンパ腺の腫れ、寝汗、下痢などを伴って痩せ衰えるのが特徴である。最近、このウイルスが脳の神経細胞にも感染し易く、痴呆などの精神障害をきたす可能性があるといわれている。しかし、このような症状が揃う患者は氷山の一角で、感染していても症状が比較的軽い前エイズ症状患者群、無症状のキャリアーの状態の人が沢山いる。

世界保健機関(WHO)が今年3月11日までに集計したエイズ患者は、全世界91か国で42,404人であると報じられているが、無症状のキャリアー

や前エイズ症状患者も 含めると全世界で 500 万～1,000 万人ともいわれている。エイズ患者の約 75 % はホモセクシャルあるいはバイセクシャル (相手が男女両方) の男性であり、麻薬中毒者が 17 %, その他である。また子供の感染例も増える傾向にある。

わが国では、厚生省が認定した患者は現在までのところ 36 人で、22 人が血友病患者、ホモセクシャルが 11 人と大部分を占めている。

エイズウイルスに感染すると、血液中にウイルスに対する抗体ができるので、その抗体価を調べることによって感染したかどうかを知ることができる。感染機会があったあと、抗体反応が陽性になるまで平均 2～8 週間といわれていたが、今では平均 12 週間、長い時には 6 か月もかかる時があるといわれている。わが国で血友病患者に多くの

感染者がみられるのは、汚染された血液製剤を外国から輸入して使用してきたのが原因とされている。最近の抗血友病製剤は熱処理が加えてあり、感染の危険性はほとんどない。また、B 型肝炎ワクチンやガンマグロブリン製剤などの血液製剤も、処理過程においてウイルスが不活性化されるので感染の恐れはないといわれている。エイズに対する有効な治療法は、現在までのところ無い。エイズウイルスに対するワクチンも、今までのところ製品化されていない。従って、危険な性行為を戒め、性的接触による感染を防ぐため、コンドームの使用など予防が有効な方法である。一般的にはカミソリ、歯ブラシ、タオルなどの貸し借りは控えた方がよい。いずれにしろエイズに対する正しい知識の普及と教育などの対策が急がれる。

(保健診療所 森下玲児)

計 報

安井 迪夫 (施設部企画課会計掛経理主任)

4 月 11 日逝去、42 歳。昭和 40 年木材研究所勤務、経理部経理課、主計課を経て 59 年施設部企画課会計掛経理主任に昇任。60 年永年勤続者表彰 (20 年勤続) を受ける。

日 誌

(1987 年 3 月 1 日～3 月 31 日)

3 月 1 日～2 日

入学者選抜学力試験 (第 2 次学力検査) A 日程試験

4 日～5 日

入学者選抜学力試験 (第 2 次学力検査) B 日程試験 (法学部の一部)

〃 医療技術短期大学部入学試験

10 日 評議会

13 日 イスラエル国 Yaacov Cohen 大使来学、伊藤清名誉教授に対するウルフ賞伝達式、総長と懇談

17 日 医療技術短期大学部卒業式・同専攻科修了式

20 日 国際交流委員会

〃 附属図書館商議会

〃 中華人民共和国蘭州大学 胡之徳 学長ほか 3 名来学、総長及び関係教員と懇談

23 日 修士学位授与式

〃 博士学位授与式

〃 アメリカ合衆国 Amherst 大学 Peter R. Pouncey 学長ほか 3 名来学、総長と懇談



イスラエルのヤコブ・コーヘン大使 (右から 2 人目) が来学し、伊藤 清名誉教授 (右から 3 人目) にウルフ賞を伝達 (3 月 13 日、総長室で)

24 日 卒業式

30 日 スイス 連邦大学事務局長 会議一行、Zürich 工科大学 Hans-Rudolf Denzler 事務局長ほか 5 名来学、学生部長及び関係教員と懇談

31 日 評議会

